

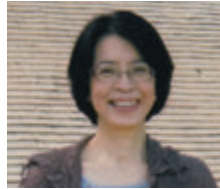
# 心理学 ミュージアム



関西大学文学部 准教授 **菅村玄二**

Profile—すがむら げんじ

早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程修了。博士（文学）。2010年より現職。専門は身体心理学、理論心理学。著書は『マインドフルネス：基礎と実践』（分担執筆、日本評論社）、『身体心理学』（分担執筆、川島書店）など。



関西大学社会学部 教授 **遠藤由美**

Profile—えんどう ゆみ

京都大学大学院教育学研究科教育方法学専攻博士課程修了。博士（教育学）。2003年から現職。専門は社会認知心理学。著書は『ニューリベラルアーツ 心理学』（共著、有斐閣）、『共感』（分担執筆、岩波書店）など。

## オンラインとオンサイトの活動



写真1 「心理学ミュージアム」の入り口



写真2 「心理学ミュージアム」の展示室

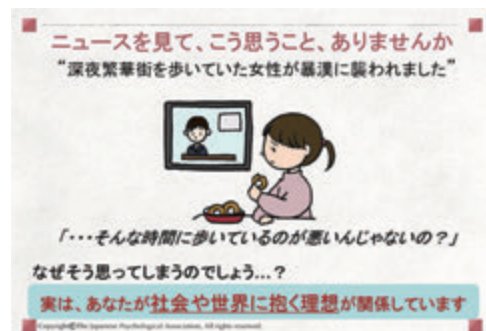


写真3 2015年最優秀作品「人はなぜ被害者を責めるのか？」の一面

心理学は一般の方々からとりわけ高い関心と期待をお寄せいただいている分野ですが、他方で誤解が多いことでも知られています。心理学は、日常生活に関わるものから人間の探究に関することまで科学的に解明しようと、多くの知見を積み上げてきました。その成果は、人に関わる職業（医療、福祉、教育、サービス業など）だけでなく、広く一般の方々にも役立つはずで

そこで、門戸を開いて心理学を積極的に伝えることによって、人々の幸福を向上させることができるのではないかと考えた本会のメンバーが集まり、2010年に博物館小委員会が発足しました。これは本会が公益社団法人へと生まれ変わり、「人々に役立つ」ことを理念する流れにも沿うものでした。1年間の準備期間を経て、WEB上で心理学ミュージアムを開設したのは2011年です。ここでは、弊委員会の活動として、「心理学ミュージアム」のウェブサイト（写真1, 写真2, 写真3）と実際のミュージアムでの展示活動（写真4）を紹介し、今後の課題を考えます。

## オンライン活動

**【展示室】**ここでは、弊委員だけでなく、本会員の方から公募した「作品」を展示しています。作品は、心理学の知見を十数枚のスライドで、中学生にもわかるように紹介する内容になっています。現在、作品数は30以上あり、社会、感情、発達心理学などに関する研究をわかりやすく紹介しています。授業などでもぜひご活用ください。また例年、優秀作品賞も授与していますので、どうぞ奮ってご投稿ください。

**【歴史館】**2015年から心理学の古典的実験機器を高精細の画像を交えて紹介するページも開設しました（『心理学ワールド 69号』『心理学ミュージアム』参照）。かつての実験機器は、時代とともにどんどん廃棄されていきますので、こうしたデータベース化は「ミュージアム」で展示すべき資料的価値があるといえるでしょう。

**【リンク】**情報提供の一貫として、「リンクモール」というページを作り、錯視・錯聴、実験機器、統計的手法などを解説するサイトへのリンクを集めています。また「各地の博物館」のページでは、心理学に関する展示のある国内各地や世界各国の博物館を紹介しています。たとえば、2010年に開設された「心理学史センター」（アクロン大学）では、ミルグラムの服従実験で実際に使われた、偽の「電気ショック発生機」も常設されています。随時更新していきますので、掲載してほしい情報などありましたら、事務局までご一報ください。

## オンサイト活動

2015年は「静岡科学館る・く・る」で開かれたサイエンスフェスティバルで、展示活動をしました。小学生をはじめとした子どもたちにラバーハンド錯覚を体験してもらったり、単純接触効果のミニ実験を受けてもらったりしました（写真4）。1200名くらいの方々に積極的にご参加いただき、盛況のうちに幕を閉じました。



写真4 宇宙人のイラストを使った単純接触効果のデモンストレーション

## 今後の課題

これからの課題としては、大きく「国際性」と「双方向性」の充実があげられます。本サイトには、海外からのアクセスが毎月少なからずあります。今後は、英語での情報発信も行い、国際化を図る必要があるでしょう。他方、オンライン博物館は利用者が時間や空間に拘束されないという利点がある反面、一方向的な情報提供となりがちです。しかし、専門家と非専門家、人々同士の双方向のやりとりを通じて、心理学が社会に根ざし、人々に必要とされる存在になっていくとすれば、双方向コミュニケーションの機会を創出することも重要です。そのためには、ウェブサイトの改良やSNSの活用だけでなく、オンサイトの活動を増やしていくことも求められます。人々との対話のなかで生み出される叡智を拠り所としながら、将来的なオンサイト博物館の開設につなげたいと夢見ています。